

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：高松 諭

事業名	一般国道258号 <small>だいそう</small> 大桑道路		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	白：岐阜県大垣市楽田町 至：三重県桑名市大字小貝須字柳原			延長	41.6km	
事業概要	<p>一般国道258号大桑道路は、岐阜県大垣市楽田町から三重県桑名市大字小貝須字柳原に至る延長41.6kmの道路であり、国道258号周辺及び西濃・滋賀方向から名古屋港・四日市港への物流軸を担う道路である。</p> <p>暫定2車線区間には、事故危険箇所（2箇所）などの課題があり、本事業は、課題解決のために引き続き4車線化整備をすることで、交通渋滞の緩和、物流効率化の支援、沿線地域の生活支援等の効果を見込んでいる。</p>					
S40年度事業化	S40年度、S43年度 S53年度都市計画決定 (H8年度変更)	S40年度用地着手	S40年度工事着手			
全体事業費	310億円	事業進捗率 (令和5年3月末時点)	約87%	供用済延長	28.9km	
計画交通量	26,300/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 3.3 (残事業) 4.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 86/1,221億円 事業費：31/938億円 維持管理費：55/283億円 更新費：0/0億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 399/3,982億円 走行時間短縮便益：375/3,699億円 走行経費減少便益：19/218億円 交通事故減少便益：5.3/64億円	基準年 令和5年		
感度分析の結果	<p>【全体事業】交通量変動：B/C=2.9~3.6(交通量 ±10%) 【残事業】B/C=4.2~5.1(交通量 ±10%)</p> <p>事業費変動：B/C=3.3~3.3(事業費 ±10%) B/C=4.5~4.8(事業費 ±10%)</p> <p>事業期間変動：B/C=3.3~3.3(事業期間±20%) B/C=4.5~4.7(事業期間±20%)</p>					
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・特急停車駅（桑名駅）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際拠点港湾（四日市港）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常活動圏の中心都市（大垣市）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携プロジェクト（中部地域航空宇宙関連産業集積活性化ビジョン）を支援する。 ・主要観光地（千代保稲荷神社、ナガシマリゾート）へのアクセス向上が期待される。 <p>⑤安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設（大垣市民病院）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>⑥災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次緊急輸送路（岐阜県地域防災計画・三重県地域防災計画より）として位置づけられている。 <p>⑦地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる。 <p>⑧生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。 					

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた意見主な意見等：

- ・桑名市など地元商工会、観光協会などで構成される「桑名地域の幹線道路整備を進める会」が早期整備を要望。
- ・「中部圏開発整備法」（昭和41年7月）に基づき、中部圏の開発整備に地元の総意を反映させる仕組みとして、昭和41年11月に設置された「中部圏開発整備地方協議会」（9県（関係県：富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀県）3市（関係指定都市：名古屋、静岡市、浜松市）より構成）が早期整備を要望。

県知事の意見：

【岐阜県】

対応方針（原案）のとおり、事業の継続について異存ありません。

なお、今後の事業の実施にあたっては、以下の内容についてご配慮願います。

- ・大桑道路は、岐阜西濃地域や滋賀方面から名古屋港や四日市港への物流軸を担うとともに、大雪時には名神高速道路や一般国道21号等の迂回路としての役割を果たす重要な社会基盤です。
- ・速やかに整備を進めるべき事業であり、引き続き早期供用に向けた事業の推進をお願いします。
- ・事業費については、最新技術の活用などによる徹底したコスト縮減をお願いします。

【三重県】

対応方針（原案）のとおり、事業の継続について異存はありません。

大桑道路は、三重県北勢地域や岐阜県西濃地域における交通渋滞の緩和や地域経済の発展に寄与する重要な道路です。今後も引き続き、両地域の交通円滑化や産業振興に資する本事業の推進をお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

- ・「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等

- ・柚井～下野代（延長3.2km）の4車線化により、柚井交差点では最大940mあった渋滞が解消。
- ・岐阜県は石油の9割を三重県から搬入しており、国道258号が西濃地域への唯一のルート。
- ・国道258号の暫定2車線区間には事故危険区間が2箇所あり、事故による渋滞が石油の輸送効率に影響している。
- ・国道258号は、広域的な道路ネットワークの一部であり、大雪に伴う通行止めリスクが存在する名神高速道路や国道21号、新名神高速道路、東海環状自動車道等の迂回路としての役割を果たす等重要な路線である。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は約87%、用地進捗率は約99%（令和5年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・養老郡養老町大巻から桑名市多度町柚井（延長12.7km）は、関係機関との調整を踏まえ整備を実施。

施設の構造や工法の変更等

- ・車両にレーザー測量機を取り付け、現道を走行しながら3次元点群データを作成するMMS測量を活用。測量作業自体の効率化と3次元点群データから作成したBIM/CIMモデルを元に土工数量を自動算出し、作業時間の短縮を図っている。
- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。